

※このお知らせは、代田1～6丁目全域にお配りしています。

「世田谷代田駅駅前広場」が完成しました！

□おだやかな日常が歴史になるむら

～富士山が見えるダイダラボッチの駅前広場～

小田急線の地下化の後、代々木上原駅から梅ヶ丘駅間の線路跡地の施設整備とその利用が進んでいます。

今年3月には、「おだやかな日常が歴史になるむら ～富士山が見えるダイダラボッチの駅前広場～」をコンセプトにした「世田谷代田駅駅前広場」が完成を迎えました。

駅前広場や駅間通路など区が整備した施設とともに、商業施設や複合施設、温泉旅館、保育園など小田急電鉄の施設も利用を開始しており、これで世田谷代田駅周辺（代田富士356広場～鎌倉通りの区間）の線路跡地が、全て利用できるようになりました。これまで、この区間の整備にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。



小田急線が地上を通っていた頃



現在の様子

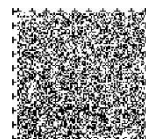
□駅前広場の整備の経緯



ワークショップの様子

区は、地域の皆さまのご意見をいただきながら、都や鉄道事業者と調整し、平成21年度に「駅前広場整備計画」を策定し、駅前広場の区域等を定めました。平成24年度には、まちづくりワークショップで、舗装やベンチ、みどり、階段、駅前の車寄せ、案内板、モニュメント、防災施設等について意見交換を重ねました。その結果、コンセプトと整備案がまとまり、設計を経て平成30年度から工事を開始し、令和3年に「富士山が見えるダイダラボッチの駅前広場」が実現しました。多くのご意見を賜りありがとうございました。

【お問い合わせ先】 世田谷区北沢総合支所街づくり課（担当：岡崎、真子、及川）
住所：〒155-8666 世田谷区北沢 2-8-18 北沢タウンホール 11階
電話：03-5478-8073 FAX：03-5478-8019



代田のダイダラボッチ！

世田谷代田駅の改札口を出ると、西に向かって視界がひらけ、伝説の巨人ダイダラボッチが歩いてあたかもその重みでくぼんだかのような駅前広場ができました。

この伝説の巨人について、「改定 世田谷の民話（世田谷区発行）」に、「代田村に巨人がのっしのっし」と題した掲載がありますので、ここで紹介します。

□ 代田村に巨人がのっしのっし

ここ何年か世田谷では、夏の乾きと冬のきびしい北風で土が冷えこみ、春を待つ村里の人たちは、ことしこそはと神仏に願いをかけるしかありませんでした。

だが、その祈りもききません。春に向かって、ますます冷えた空気が、丘も森も屋敷も畑もかこい、ふるえあがる日がつづくのです。

そんなある日、ピタリと北風がとまり、南国のような日ざしが、いっばいに畑をあたためはじめました。

その日は、しばらくぶりに富士も浅間も日光の山脈も見える雲ひとつない日でした。が、ふしぎなことに、男体山と浅間山の頂に、棹をかけて、大きなモメンの着物で北風をふせいでいるのがだれにでも見えるのです。

「風よけは着物だ。大ダコのように空に舞っている—いったいだれのものだ。」

「巨人が洗たくして、干し忘れたのだろう。」

そんなばかなことがあるものかと、村人は、だれも目をうたがいながら、おそろおそろながめてみるものの、申しあわせたように家の戸をかたくしめてしまいました。

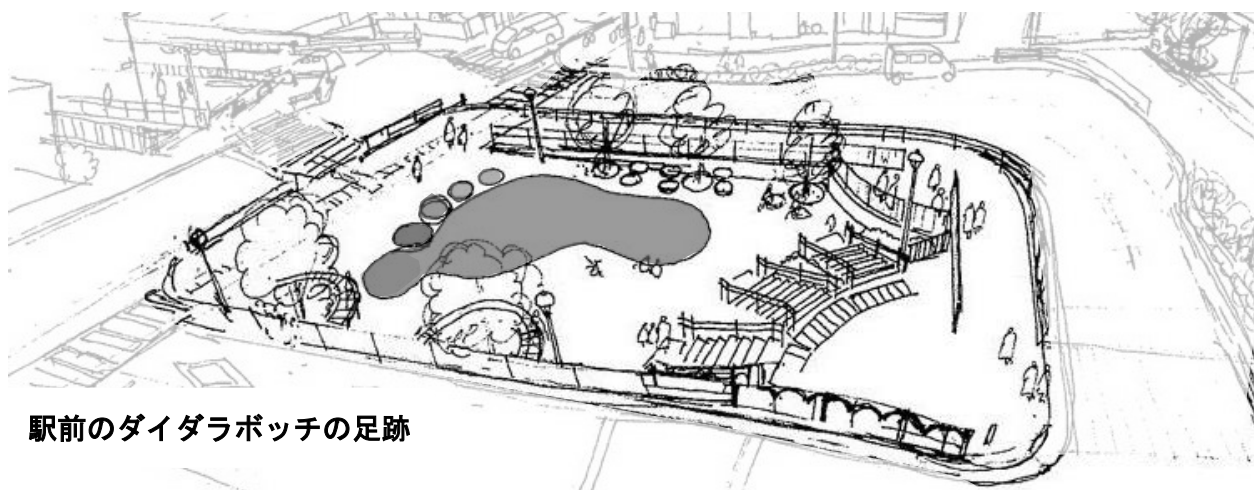
その宵のこと、風とともに世田谷の代田の丘と荒地を、のっしのっしと音をたて歩きまわる大男がいるのです。代田村の人たちは、あまりの大音に、どこの家でも雨戸を細めにあけると、月光のもとで、巨人がタスキがけでモッコをかつぎ、せっせと畑や田をつくっていくのです。

巨人は、夜なべで働きつづけ、朝になって日がさすと、もうどこかにかくれてしまいました。

いままで代田の村は、雑木と畑の高台でしたが、一夜あけると大きなくぼ地ができ、水も湧き田圃ができていたのです。

代田村の人たちは驚きです。巨人が一夜で田野を拓いてくれたと—。

つぎの日、代田で夜目に見た巨人は、筑波山に腰をかけ、長いキセルを浅間山の煙で火をつけ、煙草をうまそうにすっていました。巨人は、黙って代田の方に顔を向け、にっこりと—。



駅前のダイダラボッチの足跡